

理事長予定者
村上 達彦

Co-Creation

はじめに

人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つという意味の込められた令和の幕開けは、社会全体を希望と高揚感で包みました。スポーツを通じた平和の祭典として世界中の人々を魅了し、感動と歓喜そして未来に引き継がれるレガシーをもたらす2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が目前に迫っています。テクノロジーの進化とともに人々のライフスタイルが急速に変わり、100年の人生を豊かに自分らしく生きることが志向され、多様な選択肢が許容される時代になりつつあります。今、私たちの国日本は歴史の転換期にあり、新しい息吹と革新の萌芽を感じる事が出来ます。一方で、静かなる有事とも呼ばれる人口減少が影を落とし、支え合いの基盤が弱まり、絆やつながりが失われ、地域の存続さえも危ぶまれる中で重々しい空気が停滞しているのもまた事実です。解決すべき諸問題を孕む現代の社会は、私たち人間が自ら創り出した現実でもあります。

共創=Co-Creation。それは、他者とともに創造的な活動によって新しい価値を生み出すこと。私たちが受けてきた教育の中では、一つの正解を導き出す訓練を繰り返すことで、個性的な考え方や他人と異なる意見が均質化し、本来有する創造性が無自覚に失われてきたのかもしれない。また、現代の多くの人々がデジタル機器で自分の世界に没入し、効率主義や成果主義の中で意識が個人にフォーカスされ、共同性が希薄になっているのかもしれない。近い将来、今ある仕事の多くが人工知能に置き換わり、今の子どもたちは、私たちが想像もつかないような仕事に就いているとも言われています。人間は、他者との創造的な活動によって、この世界を創ってきました。人間は、他者との関わりの中で身体と頭を動かしながらものを考えています。これからの社会では、人間にしか出来ないこと、つまり「共創」することこそ大切にすべきではないでしょうか。私たちが追い求める「明るい豊かな社会」は誰かが創ってくれるわけではありません。そして、この社会に存在する諸問題への解答は一つではありません。私たち Jaycee こそが志を持ち、多様な価値観を尊重しながら有機的につながり、自由で豊かな発想を共有し共感し合い、より良い未来を共に創り出していくべきなのです。

創立 60 周年

福山青年会議所は、1960 年の創立以来、飽くなき挑戦の意志と妥協なき姿勢を示し、新たな価値創造と進化を繰り返して今に至ります。歩んできた道のりは決して平坦ではなく、先達の汗と涙、地域の正しい発展を目指そうとする崇高かつ熱き想いで多事多難を乗り越え、地域の信頼を勝ち得ながら 59 年に渡り丁寧にそのバトンをつないできました。一歩踏み出す勇気と挑戦こそ尊く美しいという価値観が共有され、学び合い称え合い磨き合う、成長の機会に満ちたこの組織風土は、創立からの歩みの中で醸成された財産に他なりません。次代の創造者たる私たちも、恵まれた土壌の中で共に大いなる夢や理想を語り合い、自らの殻を破って失敗を恐れず挑戦し、より良い自分になろうではありませんか。

10 年後には日本青年会議所の会員が 1 万人を切るという悲観的な予測もあるほど、持続可能性を問う声が高まり、組織変革の必要性が叫ばれています。福山青年会議所もまた、輝かしい未来が約束されているわけではありません。これから 10 年先、100 年先も熱気に満ちた中で「明るい豊かな社会」の実現に向かって果敢に挑戦し続けられるよう、今を生きる私たちが現実を直視し、変えざるものと変えるべきものを青年の澄んだ目で見極めつつ、組織を進化発展させなければなりません。本年度は、これまでの歩みを振り返り、共に節目を祝い感謝を伝え、これからも地域社会の正しい発展に資する組織であり続けることを高らかに宣言してまいりましょう。

バックキャストで描くまちの未来

入会直後に運営に参画した 2013 年度の国際アカデミー in 福山。その素晴らしさを肌で感じたことがきっかけで、デリゲイツとして参加した 2016 年度の国際アカデミー in 水戸。一生色褪せることのない強烈な原体験が人間を次の挑戦へと突き動かします。各種大会を自らの手で主管し運営に関わることは、人々の意識と行動を変え、組織の連帯や行政諸団体との連携を生み出し、まちに大きなインパクトをもたらす大いなる可能性を秘めているのです。2019 年度、私たちは各種大会の招致に関して多角的に研究を重ね、未来の展望を組織全体で共有しました。全国城下町シンポジウムはそのうちの一つであり、福山城築城 400 周年を迎える 2022 年にこの大会を主管することを見据えています。歴史と伝統あるこの大会を招致することで、まちの魅力を力強く全国各地に発信し、地域の人々とともに新たなまちの可能性を見いだす千載一遇の機会を得ることが出来ます。私たちには、受け継いだバトンを次代に確実につないでいく責任があります。視界に捉えることが出来る各種大会に対して、積極果敢に手を伸ばしてまいりましょう。

福山市では、人口減少社会にあっても「活力と魅力に満ちた輝くまち」を実現するために、2021 年までの 5 か年計画のまちづくりを産学金官民との連携の中で着々と進め、中心市街地や新体育館等ハード面の整備をはじめ目の前の景色が大きく変わろうとしています。リノベーションまちづくりや先端技術の積極活用、公園や歩道等公共空間における社会実験など新機軸を打ち出し、地域課題の解決へ期待が高まっています。私たち福山青年会議所も、逆算思考（バックキャスト）で目指すべき目標を定め、理想の姿を共に描いて共有

し、心躍る未来へ向かって着実に歩みを進めてまいりましょう。未来を切り拓くのは私たち青年の使命なのです。

強くしなやかなまち福山に

2018年7月、多数の死者や行方不明者、広範囲に及ぶ甚大な被害をもたらした西日本豪雨。長時間に渡る記録的な集中豪雨は、河川の氾濫や浸水害、土砂災害を招き1年以上が経過した今なお爪痕は深く、復興も道半ばです。恐怖心と無力感を感じると同時に、自然災害への備えの大切さを痛感させられました。福山市では、「平成30年7月豪雨災害を踏まえた今後の水害・土砂災害対策のあり方検討会」が設置され、国や県とも連携しながらハードソフト両面から防災対策や体制構築が進んでいます。地球規模の気候変動に関連する極端な気象現象や、30年以内に70%もの確率で発生すると予測されている首都直下型地震や南海トラフ地震を含む自然災害は、地域に計り知れない経済社会環境的ショックをもたらし、いまや防災減災対策なくして持続可能性を語れない時代に突入したと言えます。災害を与件として捉えて、そのメカニズムを知り、地域のリスクと脆弱性を低減させるために私たちは先頭に立って行動を起こすべきなのです。

昨年度、福山青年会議所は福山市社会福祉協議会との「災害ボランティア活動支援に関する協定」を締結しました。平時から連携しつつ、有事の際には情報収集、支援物資の調達、輸送の協力等を行うことで迅速な活動を支援することを目的としています。一人で出来ることに限りはあっても、日頃から地域で協力し、支え合える環境とつながりを共に創ることが出来れば、いざという時の大きな力となるのです。近年は、福山市行政関係者の方々と毎年意見交換会を設けることで、お互いの方針を確認し合いながら協力関係を構築しています。本年度も、私たちのカウンターパートとしての行政と密に連携し、実効性あるまちづくりを共に展開すべきであると考えます。これらのパートナーシップを軸に、主体的仲介者として地域住民や企業、諸団体等を複合的につなぎ、私たちが有する全国に広がるネットワークも有効に活かしながら、強くしなやかなまち福山を創造するための運動を展開してまいります。

責任世代としての自覚 私たちだから出来ること

令和の時代が始まった今、日本の教育は大変革期を迎えようとしています。2020年度から学校現場で段階的にスタートする新学習指導要領には、「これからの社会がどんなに変化して予測困難な時代になっても、自ら課題を見付け、学び、考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を共に創っていきたい」という思いが込められています。一方で、子どもたちの生き抜く力を育むという本質的な義務教育のあり方は変わりません。

私たちが時代に先駆けて育成に取り組んできた真の国際人とは、「故郷に誇りと愛着を持ち、世界の多様性に対応する力と相手を思いやる心を備え、国際社会の中で活躍出来る人財」のことであり、1年毎に新たなエッセンスを加えながら学びと実践の機会を地域の子どもたちに提供してまいりました。市内の外国人居住者は年々増えており、異なる文化

や言語を持つ人たちと当たり前のように学び、働き、生きる多様性社会はもうすぐそこまで来ています。これからの時代に必要不可欠な素養を備えた真の国際人を育成するスキームを成熟させ、力強く運動を推進し、その意義を地域に広く浸透させてまいりましょう。

昨年度開催された日本青年会議所第 159 回総会において、全会一致で SDGs（持続可能な開発目標）推進宣言が採択され、外務省と共同で「SDGs 推進のためのタイアップ宣言」が行われました。日本青年会議所の正会員である私たち福山青年会議所も足並みを揃え、2030 年までに目指す「多様性と包摂性のある社会」実現のために、広い視野を持ちつつ地域に根差した具体的取り組みを展開してまいります。運動を一層広がりあるものとするためにも、各世代、特にこれからの社会を担う若年層の経済、社会、環境に対する興味関心を高め、社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）を引き出しつつ、彼らとともに世界共通の目標を共有した上で持続可能な社会を創っていくことが重要です。未来のための人財育成は、学校や教育機関に一任するのではなく、地域や産業界を含めた社会総がかりで取り組むべきであり、全ての世代を支える私たち責任世代が果たすべき大きな役割があるはずで、年齢や立場の違いを越えて、若年層や子どもたちに対する実践教育の場を積極的に創出してまいりましょう。

未来を切り拓く New Jaycee

物事の本質に向き合い、青年らしい柔軟な発想・企画力を発揮する。溢れんばかりのエネルギーにより社会課題や新しい領域に真っ向から挑み、ひたむきに努力する。公共心豊かなリーダーとして、地域の未来を照らす希望の光となる。私たち Jaycee の存在意義はここにあります。しかしながら、誰もが初めからそのような人間であるはずがなく、単年度制の中で明確な目標と自覚を持って行動するからこそ素養を高めていけるのであり、逆境に立ち向かい、葛藤しながら人が人で磨かれるからこそ自己の成長を実感でき、有意義な青年期が送れるのです。

昨年度は、会員資格規程の変更に伴って会員募集期間を 1 か月程延ばしたことも奏功し、20 名と多くの同志を迎え入れることが出来ました。本年度も福山の未来を共に創っていくことが出来る多くの New Jaycee を迎え入れ、様々な機会を提供すると同時に、一層力強く運動を推進してまいりましょう。会員拡大の過程では、相手に対して想いを伝えて意識を変えなければ意味がなく、それ自体が素晴らしい成長の機会であり、JC 運動そのものであると言えます。社会との大切な接点であり、組織と自分自身をより良く変える契機となるからこそ、拡大活動を組織全体で行うことは当然の帰結であります。本年度は、30 代後半に差し掛かる会員が 7 割を超える会員構成の現実を直視し、20 代の若い世代や女性、起業家、行政職員、フリーランスといった組織に多様性と柔軟性をもたらさうる会員の入会も促進し、日々の行動量に私たちの本気を表してまいりましょう。

心を一つに

伝統芸能や職人の世界では、口伝と体得の中で技と心が伝承されていきます。私たちを導いてくださる先輩方の教えは本質的であり、実践体得を認めることを重んじています。血肉に伝わるような信頼関係の中にこそ、大切な原点や初心、その志や想いは伝承されていくはずで。私たちに勇気と知恵、そして良き緊張感を与えてくださる特別会員の方々と親睦を深められる貴重な時間を有意義に過ごしてまいりましょう。

組織の和を揺るぎないものにするには、会員同士が膝を突き合わせて語らうとともに、時に笑顔で心温まる時間を共有することも大切です。同じ志を持つ者同士が互いの価値観や考え方に触れ、共に勇気づけ、認め合い学び合うからこそ歩みを前に進めることが出来ます。人のモチベーションは、他者とのコミュニケーションによって大きく左右されます。誰かの一言で目が覚めたり、報われたり、使命感を感じるものです。そして、私たち自身の未来を想うとき、活動を傍で支え、深い優しきで包んでくれる家族やパートナー、大切な周りの方々の存在こそが心の拠り所となります。お互いの信頼や結びつきを高めて、「やらなければいけない」から「よしやろう！」と真のポジティブチェンジが生まれる組織へ。組織の血流であるコミュニケーションを大切に、未来に向かって全員の心を一つにする場を創ってまいりましょう。

世界との友情、同志との絆

青年会議所には117の国と地域に広がるネットワークがあり、約16万人もの同志がいます。「恒久的世界平和」の実現を希求する世界中日本中のJayceeが集う各種大会や諸会議には、新しい学びと発見、出会いや再会とともに、大きな可能性が広がっています。本年11月には国際青年会議所(JCI)世界会議が横浜の地で開催されます。そのスケールは圧倒的であり、総会やアワード、セミナー、盛大なセレモニー、華やかなパーティーや各国ナイトに身を置くことで、世界に広がる青年会議所の奥深さや幅広さに触れることが出来ます。「世界との友情」を信条とする私たちは、この絶好の機会を得て積極的に参加し、世界とのつながりの中で個人の成長と組織の発展につなげてまいりましょう。

各種大会や諸会議等に赴き国内外の同志や諸先輩方とお話をすると、福山そして福山青年会議所の知名度の高さに気づきます。歴史の中で多くの出向者が福山青年会議所を背負って活躍し、高い評価と信頼を得てきたことの証であります。出向者を輩出するということは、出向者個人の成長と福山の発信だけでなく、組織の未来のために必要なことなのです。20年ぶりに日本青年会議所中国地区協議会会長を輩出した昨年度と同様に、本年度も日本青年会議所本会の委員長をはじめ、多くの志高き出向者を輩出することで福山青年会議所の存在感を示しつつ、組織の成熟と運動の進化につなげましょう。また、LOMに加えて出向先でも活動する凝縮された1年間を過ごす出向者に対して、敬意と感謝の念を持って寄り添い支えることで、その力をいかに発揮出来る環境を整えてまいりましょう。

広げよう、共感の輪

「地域社会の正しい発展を図ること」を目的として掲げる組織として、その運動や方針を的確かつ効果的に伝えつつ存在価値を示し、理解と賛同そして協力や協賛を得るための努力を惜しんではありません。情報が瞬時かつ大量に氾濫し、無意識に取捨選択される社会の中で、常に受け取り手の立場に立ち、真心のこもった端的な言葉とビジュアル、時には琴線に触れるようなメッセージとともに運動の一端を届けることで共感を生み出していくことが大切です。私たちが何者で、どこに向かおうとしているのか。地域とともに歩む姿勢を発信することと同時に、社会の声を広く聞き、世間からどのように思われているのかを認識し、社会に合わせて変化して行く姿勢も必要です。地域の理解と支援こそが組織の持続的成長につながるのです。対内広報も重視し、会員一人ひとりが汗を流し輝くシーンを「見える化」することで、組織に対するエンゲージメントを高めてまいります。地域を牽引するリーダーは常に伝える力を磨く必要があり、広報スキルは学びと経験によって高めることが出来ます。メディア広報、地域広報、対内広報をバランスよく戦略的に実行し、タイミングの的確さときめ細かさ、手法の正しい選択と情報の鮮度に心を配り、福山青年会議所のプレゼンスをより一層高めてまいります。

堂々たる福山 JC に

開会の点鐘とともに幕を開ける月に一度の例会。責任と自覚ある会員が一同に会することで、向かうべき方向性を確認するとともに、新たな学びを得て明日への原動力とし、一丸となって堂々と歩みを進めるためのかけがえのない時間です。厳粛な空間と洗練された運営があるからこそ、一つひとつの言葉や情報が胸に響きます。

「時は金なり、価値創造の原価なり」。一人ひとりの想いで満たされた熱気ある会場の中で、空費されることのない価値ある時間を全会員で共有してまいります。

青年会議所は、人間として、Jaycee として持ち合わせておくべき必要不可欠な礼儀作法を身に着け、周囲への配慮と相手を思いやる心を養い実践する、青年の学び舎でもあります。社会的倫理や規範に逸脱するような言動があれば、連綿と紡いできた組織への信頼を維持することは出来ません。その場その時その瞬間に、相応しい言葉と振る舞いを選択出来る人間の品格を磨き、「己を律して、行動する Jaycee」であり続けましょう。

諸会議こそ、私たち青年会議所にとって「志を同じうする者相集い力を合わせる」ことそのものであり、組織の調和と運動の根幹を為すものであると言えます。議論を交わしながら英知を結集することが力強い運動の源泉となるのです。その運動の効果を最大化させるべく、理にかなった運営手法や議案フォーマットのあり方も追求してまいります。

おわりに

「誰のために、何のために」。不意に投げかけられたこの問いに、当時幹事を務めていた私は戸惑い、返答に窮しました。先入観や固定観念に捉われ、与えられたミッションに対して漠然と、盲目的で自分本位に手段から考えていたのです。

福山青年会議所は、英知と勇気と情熱を振り絞って創り出す一滴の雫をきっかけに、徐々に波紋を広げて大きな波（ムーブメント）を起こし、人々の意識と行動、ひいては地域社会に変化をもたらす一つの運動体であります。その運動体を構成する会員一人ひとりが青年としての責任と自覚を持ち、自らの行動に表していかなければなりません。

福山青年会議所入会。それは、ともすれば「生き方の選択」と言えるほど人生で最も大きなターニングポイントであったのかもしれませんが。そして月日は流れ、いつの日からか長い時間をかけて培われたものに強く魅かれるようになりました。

伝統を大切にすること。

それは、今を形づくる過去を想うことです。

日常の暮らしの中には、私を支えてくれるたくさんの人たちがいます。

自分という存在は、大きな流れの中の、小さな存在にすぎません。

そのことを知ることで、また次の一步を踏み出すことができます。

伝統を大切にすること。

それは、新しい時代を創ることです。

遠い未来に生きる誰かのことを思いながら、

今という時代にしか出来ないものを創りたいと、願うことです。

伝統の力を宿した私たちが今、心を一つに。

共に輝く未来を創り出そう。